

1) 西表島植物誌編纂事業Ⅶ

米倉浩司¹・天野正晴¹・阿部篤志¹

キーワード：西表島 植物相 植物誌編纂 データベース化

1. はじめに

西表島（沖縄県八重山郡竹富町）は、その亜熱帯特有の生物相と島嶼環境がもたらす希少性から奄美大島、徳之島、沖縄島北部とともに令和3年に世界自然遺産に登録され、注目されている地域の1つである。西表島の植物相に関しては、世界遺産登録に先立ってこれまでの調査が参照され、様々な希少種が生育することが示されているが、これまでに島全体の植物相に関するまとまった報告は行われておらず、世界遺産の価値を長期にわたって保全する上で障害となっている。そこで当財団では、琉球大学、鹿児島大学などの研究機関とともに平成29年度より本事業を開始し、西表島全域の野外踏査を実施している。さらに過去に採集された西表島産標本情報を集積すべく鹿児島大学、京都大学、琉球大学、東京大学などにおいて標本調査を進めている。令和4年度に実施した現地調査及び標本調査の結果を中心に報告する。

2. 調査方法

1) 現地調査

調査は、昨年度と同様に全島をくまなく踏査するように実施した。また令和元年度～3年度に引き続き、琉球大学のトランセクト調査へも参加した。採集標本は沖縄美ら島財団総合研究センターの植物標本室に、トランセクト調査での採集標本は琉球大学熱帯生物圏研究センター西表研究施設にそれぞれ収蔵し、データベースに登録して管理を行った。西表研究施設の標本についても、琉球大学理学部標本室への移管とデータベース登録に着手している。

2) 標本調査

鹿児島大学総合研究博物館（KAG）、京都大学総合博物館（KYO）については、令和3年度に引き続き共同研究契約を締結し、琉球列島産標本の画像取得・データベース化を行った。令和4年度には、加えて東京大学（TI）とも共同研究契約を締結して同様の作業を開始した。東北大学（TUS）、東京都立大学（MAK）においても西表島産標本のデータベース化と画像取得を行った。国立科学博物館（TNS）や米国のU.S. National Herbarium (US) のホームページ上で公開されている画像付き標本データベースからも西表島産の標本を抽出し、画像から同定をチェックした上でデータベースに加えた。



写真-1 現地調査状況。左：西表島新産のホソバノキミズの生育地。右：トランセクト調査での標本作成。

3. 結果と今後の課題

1) 現地調査

現地調査は、令和4年5月～令和5年3月までの間の延べ35日間実施し、約350種、875点（重複標本を含まない）の標本を採集した。この間、琉大のトランセクト調査には全部で6地点参加した（トランセクト調査において採集された標本は琉大のコレクションとして扱われるため原則として上記の数字には含まれない）。

¹植物研究室

調査の結果として、西表島新産で国内では2例目となる希少種ホソバノキミズの西表島における生育状況（写真1-左）をまとめた論文が掲載された。さらに、野生のココヤシの西表島における生育状況に関する論文が掲載された。

今年度は、島中央部や西南部などアクセスが困難な地域での調査を目論んだものの、天候不順のため調査目的地に行けないことも多く、未調査地が残る結果となった。その分、既調査の場所において時期を変え再訪し、補完的な調査を行うとともに開花・結実時期の確認など植物季節の解明にも努めた。

2) 標本調査

当財団所蔵の標本の整理、貼付とデータベース化を進め、令和4年度には西表島産1035点をデータベースに登録した。KAG、KYO、TIとの共同研究の結果、西表島産標本に関してそれぞれ182点（KAG）、2185点（KYO）、約800点（TI）の画像取得、データベース化が完了した。東北大学においても琉球列島産標本のデータベース化を行い、令和4年度は沖縄県分で793点をデータベース化した。

4. 第3回西表島植物誌編纂委員会

コロナウイルス感染症の蔓延のため、令和4年度に予定されていた西表植物誌編纂委員会は延期となった。琉球大学によるトランセクト調査が令和4年度末をもって終了し、令和5年度はこれまでに集積したデータのとりまとめと原稿の執筆が中心となるが、早急にこれにとりかかる上でも編纂委員会の立ち上げが急務である。

5. 外部評価委員会コメント

野外調査は、コロナ下の難しい時期にもかかわらず、大変良くなさったと思う。然し植物誌の執筆は完全主義ではいつまで経っても出来ないのでは、R5年からは標本同定と原稿準備を始められる事を勧める。また、植物誌の作成にあたっては司書を兼ねた編集者が不可欠であり検討されたい。（小山顧問：高知県立牧野植物園 顧問）